

令和4年度第1回浦安市認知症総合施策検討委員会 議事要旨

1. 開催日時 令和4年6月27日(月) 19:00~20:45

2. 開催場所 浦安市役所 4階S2.3.4会議室

3. 出席者

(委員)

鈴木委員長、勢司副委員長、高木委員、小田委員、高橋委員、小島委員、池城委員、沖野谷委員、岡田委員、戸倉委員、大塚委員、亀井委員、相原委員、河内委員、牧野委員、高梨委員、八田委員

(事務局)

並木福祉部次長、斉藤高齢者包括支援課長、高齢者包括支援課(多田・塚原・大塚・荒井)春田高齢者福祉課長、築地介護保険課長、各地域包括支援センター(富永・浅地・松本・青野・園田)

(傍聴人) 4人

4. 進行

(1)委嘱状交付

(2)市長あいさつ

(3)委員長、副委員長選出

(4)委員長あいさつ

(5)議題

①浦安市認知症とともに生きる基本条例について

②浦安市の主な認知施策・事業について

5. 議事の概要

議題①及び②について、資料に基づき事務局から説明をした後、次のような意見交換があった。

委員：認知症の患者を臨床で診察して、クリニックだけでは回復につながらない。家族は疲弊していて悪循環になることが多い。浦安市は、医療・介護などの連携が年々スムーズになっていて、条例も施行され、市民の理解が進み、ネットワークの裾野が広がればと思う。微力ながら力になりたい。

委員：歯科医院に治療に来られる患者さんで認知症の疑いのある方もいる。医科的なことを言ってよいかの悩みもあるが、県の歯科医師会の役員もやっていて、健康な歯でバランスよく栄養を取ることが大切であると思う。

委員：家族もケアマネも疲弊している。解決策もなかなか見つからないが、地域の理解が必要である。フレイルから認知症に進むことがある。

委員：認知症の中核病院で相談員をしている。徘徊や暴力などで、入院させて欲しいとの相談がある。認知症イコール問題のある人と考えられているが、住み慣れた地域で暮らすことは大切であり、浦安市の地域包括支援センターは、問題や課題だけでなく、「強みを活かす」ということを念頭において考え、認知症の人の意思を尊重していると思う。

委員：認知症条例の制定の際に委嘱を受け、委員をしている。普段、認知症の人との接点はないと思っていたが、認知症で困っている人が周囲にもいることに気付いた。認知症サポーター養成講座、認知症とともに生きるまちづくり応援店等、商工会議所を通じて協力したい。

委員：本年4月から浦安警察署で生活安全課長をしている。防犯や保護の担当をしていて、高齢者が被害者や被疑者になることがある。独居高齢者やセルフネグレクトにも関心を持っている。

委員：浦安市内の郵便局は、2019年に浦安市と包括協定を締結している。市内に7か所の郵便局があり、先月もサポーター養成講座を開催した。高齢者のお客さんも多いため、しっかりと取り組んでいきたい。

委員：条例の第5条で市民の役割が規定されている。集合住宅に住んでいる方で、認知症の進行でクレームや嫌がらせがあった。この条例が普及浸透して、家族や集合住宅に住む人の理解が必要と考える。

委員：入船北エステート自治会の会長をしている。ともづな新浦安と地域ケア会議を開催して、自治会ベースでサポーター養成講座も行っている。今まで2回開催したが、養成講座は認知症を理解する上で、良いと思う。

委員：15年ほど前に義母を重度の認知症で亡くした。老人クラブの活動では、コロナで認知症が進み、クラブを退会する人が見られるが、健康サロンをサークル活動の中で取り入れている。健康年齢を伸ばすことをスローガンにしたい。

委員：妻が9年前に認知症を発症して、7年前から介護が必要となり、本年2月に亡くなった。本人は認知症の自覚がなかったようだが、少しでも役に立つ

ことがあればと、この会議に参加している。

委員：浦安市社会福祉協議会では、介護予防の取り組みやサロン活動を行っている。うらちゃんカフェ（認知症カフェ）も、高洲公民館やUセンターで再開した。また、成年後見支援センターの運営や市民後見人の養成も行っている。

委員：身内が3週間前に、アルツハイマー病の診断を受け、市として認知症を支援する側と、家族として支援される側の両方となった。

委員：関係者の皆さんには、日頃から様々なところでお世話になっている。包括は市内に5か所あるが、セルフネグレクトや虐待など、認知症の高齢者が問題となるケースもある。地域ケア会議などを開催しているが、日常生活を支えているのは、地域の方々であると思う。

副委員長：認知症地域支援推進員をしており、本人ミーティングなどで当事者の話を聞くと、自分達では察することのできないような思いを聴くことがある。本検討委員会も、認知症のご本人から話を聞くことも重要である。

委員：認知症の方の薬の管理は大変である。病院やクリニックで同じ認知症の薬の処方を受けている場合がある。関係者の機転や連絡を取る体制作りが必要だと思う。

委員長：認知機能の低下による本人への対応は、周りの人に理解を得ることが必要である。また、立場を越えて、同じ距離感で、自分事としてとらえることが大切である。

5. 事務局より今後の予定説明

- ・ 次回委員会は10月頃を予定している。
- ・ 7月18日に認知症シンポジウムを開催する旨を説明する。